

【山形県西置賜郡小国町】

校務D X計画

小国町では、教職員の業務の負担軽減や効率化を図るため統合型校務支援システムを導入している。また、1人1台端末を積極的に活用しペーパーレス化やクラウド活用による効率化をする等の校務デジタル化の検討を進めている。生成A Iを校務に活用する等さらに校務D Xを推進し教職員の負担軽減・業務効率化を図る。

(1)校務支援システムについて

町内基幹校の小学校、中学校では平成28年9月から校務支援システムを導入し、児童生徒の名簿、出欠、成績及び指導要録作成等について校務支援システムによる管理を行っている。現システムはオフラインだが、将来的には校務システムをクラウド対応にし、学習eポータルを利用し連携できることを目標としている。

(2)校務系・学習系ネットワークの統合

令和7年度にデジタル教科書が完全クラウド化することをきっかけに、学習系ネットワークを廃止し、UTMでセキュリティ強化された回線を使いクラウド運用することで、校内のセキュリティを強化する予定である。

(3)保護者連絡アプリの導入

家庭環境が多様化している児童生徒の状況に応じた個別サポートを学校で円滑に行えるようにするため、保護者連絡アプリを令和7年度に導入する。児童生徒の欠席、健康状態の連絡について、保護者からはPC、スマートフォン等のアプリ上で簡易に可能とし、学校においてはそれらの最新状況が校務PC画面上で確認ができるものとする。

また、学校及び教育委員会からは、連絡文書の電子データでの送付や緊急時の連絡にあっては、保護者の既読状況を確認できるようにする。

(4)学習eポータルの活用

令和3年度より学習eポータルを町全体で運用している。学習eポータルを中心にドリルアプリ、デザインアプリ、授業管理アプリなどを接続し、児童生徒にも使いやすい画面に設定した。簡単にすることで授業中の無駄な時間を大幅に節約することが見込まれる。

(5)電子黒板・デジタル教科書・デジタルA Iドリルの活用

普通教室においては電子黒板を整備している。また、一部教科においてはデジタル教科書を導入し、授業や家庭学習に活用している。1人1台端末を毎日持ち帰っていることから、紙の教科書を学校に置いたまま端末のみを持ち帰るいわゆる「置き勉」

を認めている。デジタルA Iドリルにおいても宿題や家庭での自主学習に活用している。

(6) I C T支援員の配置

本町では町立学校に毎月3回程度I C T支援員を配置しており、校務や授業の補助を行っている。G I G A スクール構想により急激にI C T環境が変化したことからI C T支援員の配置は教職員の負担軽減につながっている。

(7) 生成A Iの活用

校務において生成A Iを活用している。校務においてテスト問題やあいさつ文、部活動の指導、お便り等のたたき台の作成として活用している。授業についての活用は中学校を中心に活用を促している。

(8) 計画期間

上記の取り組みは、令和7年度から令和11年度に実施することとする。